J-STAGE のアクセス統計データから見た「動物心理学研究」

後藤和宏¹⁾

Analysis of J-STAGE access statistics for Japanese Journal of Animal Psychology

KAZUHIRO GOTO¹⁾

「動物心理学研究」(以下、本誌とする)は、2009年10月13日よりJST(独立行政法人科学技術振興機構)の運営するJournal@rchiveに、前身誌である「動物心理」「動物心理学年報」を含むすべての号が公開された(第59巻2号、巻頭言および会報)。現在では、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)で印刷中のものを含むすべての論文を閲覧することができる。J-STAGEにより、月ごとのアクセス統計データが提供されているが、これまでに動物心理学研究のアクセス統計の結果が報告されたことはなかった。本論文では、2013年1月から2018年3月(執筆時点での最新情報)までの月ごとのアクセス統計を分析し、本誌の現状を報告する。

全体のPDFダウンロード数

J-STAGEのアクセス統計は、次の5つのレポートファイルからなる。資料の総アクセス数および総登録数を集計したサマリレポート、記事別にアクセス数を集計した記事別レポート、アクセス元のIPアドレスにもとづき国別にアクセス数を集計した国

別レポート、アクセス元のIPアドレスにもとづきドメイン別にアクセス数を集計したドメイン別レポート、期間購読者及び個人購読者別のアクセス数を集計した購読者別レポートである(国立研究開発法人科学技術振興機構, 2017)。このうち、記事別レポートには、DOIごとの書誌事項、全文PDF、全文HTML、引用文献、被引用文献、電子付録、エラータの各画面へのアクセス数が集計されており、利用状況を知ることができる。本論文では、記事別レポートの集計項目のうち、全文PDFのダウンロード数を解析し、利用状況を調べた。2018年5月15日時点では、本誌には515本の論文が収録されている。このうち、分析対象期間に1回以上全文PDFがダウンロードされた論文は220本であった。

Table 1に年ごとの収録論文すべてのPDFダウンロード数を示す。解析対象とした5年3ヶ月という期間内では堅調にPDFダウンロード数を伸ばしてきた。これは編集事務局が話題の研究テーマに関する総説論文の投稿を若手会員に依頼したり、年次大会での講演を講演論文として執筆するように依頼

Table 1. Total pdf download count during the period from January 2013 to March 2018.

2013	2014	2015	2016	2017	2018 (until March)
27, 425	33, 545	39, 285	42, 750	57, 474	12, 119

1) 相模女子大学
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1
連絡先: 後藤和宏
E-mail: kazuhir.goto@gmail.com

1) Sagami Women's University
Corresponding author: KAZUHIRO GOTO

J-STAGE Advance Published Date: May 31, 2018.
doi: 10.2502/janip.68.2.1

Figure 1. Monthly PDF download during the period from January 2013 to March 2018.

したりするなど、動物心理学分野での最近の研究テーマを概観できるような論文を集めるように努めてきたことも一因だろう。

各雑誌のアクセス統計は公開されていないため、本誌の利用状況を J-STAGE 掲載の他の学術雑誌と直接比較することは難しい。少し古いデータにはなるが、2005年度に J-STAGE で公開された282誌を対象にしたアクセス統計データでは、雑誌全体での年間アクセス数が1,001–5,000件の雑誌が最も多く、平均値が14,702件であると報告されている（和田・時実・田口, 2007）。10年前のアクセス統計との比較ではあるが、本誌は J-STAGE に掲載されている他誌と比べても、よく利用されているといえるだろう。

Figure 1 に集計期間における全体の月例 PDF ダウンロード数を示す。本誌は、毎年6月頃に1号が12月頃に2号が発行されており、1号が発行された時期の PDF ダウンロード数が多い傾向にある。一方、2月、3月は PDF ダウンロード数が少ない傾向にある。例年、1号よりも2号のほうが収録される論文数が少ないこともあり、2号発行の時期には1号発行の時期ほどダウンロード数が多くないのかもしれない。

論文ごとの PDF ダウンロード数

Figure 2 に集計期間におけるすべての論文の PDF ダウンロード数を示す。集計期間に PDF ダウンロードのあった論文220本の PDF ダウンロード数の中央値は448.5であった。PDF ダウンロード数が最も多い論文で9,706件であり、2,000件を超える論文が31本あった。

Figure 3 は2013年発行の第63巻から2017年発行の第67巻までの各巻に収録された論文ごとの PDF

Figure 2. Number of PDF download for each article identified by DOI during the period from January 2013 to March 2018. A right-half violin plot shows variations in PDF download across articles with median as a diamond symbol. Data from each individual article are shown in left-half dot plot. (For interpretation of the references to color in this figure legend, the reader is referred to the web version of this article).

Figure 3. Number of PDF download for each article identified by DOI in Volumes 63 – 67.

ダウンロード数を示している。対象となる論文は64本あり、それらの論文のPDFダウンロード数の中央値は425であった。各巻1本ずつはPDFダウンロードが2,000件を超えており、安定して関心の高い論文が集められているように思われる。

Table 2 に、第63巻から第67巻に掲載された論文のうち、PDFダウンロードが2,000件を超えたものを示した。これら5本のうち4本がイヌとヒトとの関係をテーマとしたものであった。このテーマは、動物心理学の研究者以外にも関心が高いこともあるためか、非常によくダウンロードされている。また、これらのダウンロード数が多い論文について、収録後の時間経過によるダウンロード数の推移を調べて

みると、収録直後に集中的に読まれはするものの、出版後3–4年経過しても、PDFダウンロード数は堅調に伸びており、比較的長期間に渡って読み続けられているようだ (Figure 4)。

日本国外からの利用

本誌は日本国外でどれくらい利用されているのだろう。Figure 5 は国別の利用者割合を示したものである。日本からの利用者は60%程度で、米国からの利用者が30%程度だった。それ以外の国からもPDFダウンロードはあるが、3番目にダウンロード数が多い中国ですら、全体の利用割合の2%程度であり、日米2カ国に集中していた。

Table 2. Most downloaded articles published during the period from 2013 (vol. 63) to 2017 (vol. 67).

DOI	Article Type	Authors	Title	PDF download
64.1.2	Review	Konno et al.	An integrated understanding of the personality concepts in animal personality psychology and behavioral syndrome research	6,067
65.1.1	Review	Nakao & Goto	Methodological problems in animal metacognition research	4,274
63.1.4	Review	Nagasawa et al.	The biological perspective on mother-infant bonding: the importance of oxytocin	2,230
66.1.5	Lecture	Fujita	What do dogs see in human behavior?	2,114
67.1.1	Lecture	Kikusui	Oxytocin bonds between human and dog	2,107

Figure 4. Monthly download count for most downloaded articles in Table 2. Each article can be identified by its DOI.

Figure 5. PDF download by countries.

全文 PDF に対してアクセス制限をかけていない、いわゆるオープンアクセスであり、会員以外も閲覧することができる。動物心理学会の会員が取り組む研究テーマは多岐に渡るため、会員が個々に取り組む研究成果がある程度まとまった段階で、これまでの自身の研究成果を振り返り、今後の展望を論じることは、学会全体でそれらの知見を共有できるだけでなく、他領域で同じようなテーマに関心を持つ人との学際的な研究を展開するきっかけとなるかもしれない。本論文が、日本動物心理学会の会員にとって、本誌への投稿を考える契機となれば幸いである。

結語

日本動物心理学会の会員は、原著論文を国際誌に投稿することが多く、原著論文の発表媒体として本誌を選択することは多くない。しかし、特定の研究テーマを俯瞰するような総説や講演などを集めることに努めるという編集事務局の方針（本誌第59巻2号および第65巻1号 編集状況）のもと、本誌は利用者数を堅調に増やしてきている。本誌が「動物心理学研究」へと改編された1990年発行の40巻1号の巻頭言には、展望論文の拡充により会員の視野を広めることの重要性が謳われているが、30年近く経過した現在でも本誌の存在意義は、変わることなく、そこにあるのではないかとと思われる。また、本誌は

引用文献

- 国立研究開発法人科学技術振興機構 2017 J-STAGE 運用マニュアル アクセス統計サービス 統計データ解説書(学協会編)(第1.21版). Retrieved from [https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/UM-10-001_kaisetsu\(access_toukei\).pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/UM-10-001_kaisetsu(access_toukei).pdf) (May 18, 2018).
- 和田光俊・時実象一・田口友子 2007 J-STAGE 登載電子ジャーナルへのアクセス動向の分析 情報管理, 50, 20-31. DOI: <https://dx.doi.org/10.1241/johokanri.50.20> (2018. 5. 7 受稿, 2018. 5. 20 受理)